

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑭【復旧・復興へのあゆみ】 震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。	総合的な学習の時間

【題材】 「郷土学習を通して震災津波後のふるさとへの理解を深め、主体的に復興・発展を支える人になろう」

- 視点
- 1 地域の自然災害の歴史を学び、復旧・復興に携わった人々を知ろう (過去・人物 「生きる」)
 - 2 郷土芸能の伝承活動から、文化への誇りを育てよう (現在・心 「人づくり」)
 - 3 「水産教室」の学習から、地域漁業の復興と未来を考えよう (未来・産業 「働く」)

【対象】 全校生徒 (1年 18名 2年 25名 3年 27名 計 70名)

【実践の概要】

5月18日(土) 運動会での郷土芸能伝承活動披露 (三陸総合運動公園グラウンド)

◇ 地域の方から郷土芸能を学ぶ中で、地域文化を理解させ、郷土への誇りを育てる。

- 4月26・30日 男子剣舞面作り・女子烏帽子作り
指導者 剣舞面作り：尾坪慶孝氏 新沼英二氏 笛：熊谷常孝氏
- 4月30日～5月16日 男子剣舞練習・女子ささら踊りと笛の練習
指導者 剣舞：畑中道之氏 村上芳春氏 佐々木信浩氏
ささら：熊谷喜一氏
- 5月13日 運動会招待状の作成、生徒会執行部による地域の老人施設と仮設住宅への配布
- 5月18日 運動会で地域への披露(大船渡市三陸総合運動公園 多目的運動広場)
発表協力者 剣舞：野形剣舞保存会
ささら：舘脇一人氏 澤幹夫氏 他 白浜地域の方々

地域の方々



父も中学生の時に剣舞を踊ってきた。今度は僕たちが引き継いで踊る番だ。



1年男子の面づくり



女子「ささら」踊り

笛練習



男子「野形剣舞」

男子の剣舞夜練習



運動会の招待状

〈感想〉

- ・ 今日運動会では、今まで取り組んで来たことをしっかり出し切ることが出来てよかった。剣舞の面づくりや踊り方など、地域の方々や先輩が教えてくれたことに感謝すべきだと思った。
- ・ 今日は立派な運動会になって良かったです。地域の皆さんや指導者の方々、先生方に感謝の気持ちをもって踊れました。

9月5日(木) 復興教育講話

◇ 郷土の自然災害の歴史を学ぶ中で、地形的特徴や災害の特徴を捉えさせる。また、過去の災害の復旧・復興に携わった先人の思いや津波記念碑に込められた思いをくみ取らせ、東日本大震災での経験と照らし合わせながら、復興を担う意欲と減災・防災への心構えを育成する。

13:35～14:30 復興教育講話「東日本大震災に学ぶ」を聴講

講師：西村輝夫先生（三陸教育施設運営会理事長、元三陸町教育長）

14:50～15:25 学んだことを振り返りまとめる



講師 西村先生

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 日本は災害の多い国 | 7 残念無念だったこと |
| 2 津波の歴史 | 8 津波後これだけはよかった |
| 3 津波もいろいろ | 9 絆いろいろ |
| 4 貝塚はどんどころにあるか | 10 出会いの不思議 |
| 5 先人に学ぶ | 11 災害後の足下(雑草)に学ぶ |
| 6 津波記念碑に学ぶ | 12 私たちに課せられたものは |

〈感想〉

- ・ 震災から2年が経ちました。でもあの頃のことは覚えています。たぶん一生忘れられないと思います。この先子どもが出来たら、今日の講話の内容を教えて伝えていきたいと思っています。
- ・ 雑草のように苦しいことに負けず生きていき、大人になっても、子どもや子孫に伝えていくことが一番大事だと思いました。
- ・ 昔の津波や東日本大震災のことに詳しく知ることが出来ました。昔から沿岸部は津波の大きな被害を受けていて、昔の経験を生かしていたらもう少し助かったかもしれないと、少し残念に思いました。この震災のことを少しでも生かせるように、津波記念碑を目立つところにつくったり、次の世代にも伝えたりすることが大事だと思いました。そして、大変なときこそ人々と助け合う大切さを改めて学びました。
- ・ 今日日本の災害や津波のことを詳しく知ることが出来ました。津波について知っておくことは大事だけど、その知識を実際に活用しなければならぬということを強く思いました。災害の後は、昔の人のようにお互いに助け合っていくことが一番だということが分かりました。



10月10日(木) 少年水産教室 (綾里漁業協同組合大会議室)

◇ 綾里の水産業の現状や海の復旧状況を学ぶ中で、復旧に努めた方々への感謝の気持ちを育て、洋上で漁業作業の見学を通して水産業に携わる方々の生き方を学ばせる。また、恵まれた自然の中で次代の漁業を担い、地域産業の復興、発展に資する気持ちを育成する。

9:00～ 9:10 1 開校式

9:10～ 9:45 2 地域漁業講話 講師：佐々木靖男氏（綾里漁業協同組合代表理事組合長）

9:45～10:00 3 ビデオ視聴「再生の海」佐藤寛志氏（みちのくダイビングリアス）

＜ 2・3年は小石浜漁港へ移動＞

10:15～11:45 4 洋上見学…2年「ホタテ養殖見学」講師：佐々木淳氏他

…3年「定置の網おこし見学」

講師：綾里漁協青壮年部 指導漁業士・青年漁業士

11:45～12:00 5 2・3年 … 閉校式（小石浜荷捌き場）

9:00～10:00 開校式・地域漁業講話と震災後の海岸や海中のビデオ講話



講師 佐々木靖男組合長

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 綾里の漁業の形と漁の紹介 | 2 養殖ワカメの生産工程 |
| 3 養殖ホタテの生産工程 | |

「綾里の水産業の復旧・復興は進んでいる。海という大自然の中での仕事は確かに厳しい。しかし、本気で漁業に取り組むなら、こんなに魅力のある仕事はない。」



ビデオ講師 佐藤寛志氏(左)

〈感想〉

- ・ 今日の講話を聞いて、震災で魚などの取れ高が少なくなりましたが、少しずつ復旧していることや、ホタテやワカメの取

◇ 地元で捕れた鮭で「新巻鮭づくり」を体験させ、漁業や水産加工を身近に捉えさせると共に、地域の食文化への理解を深めさせ、水産業の復旧、復興に積極的に携わろうとする意欲をもたせる。

13:30～14:50 1年…開会行事【綾里漁協青壮年部会長 小向周一氏挨拶】

新巻鮭作り 講師：綾里漁協青壮年部 8名

15:10～15:35 感想を書く

〈感想〉

- ・ 今回初めて「新巻鮭作り」をしました。鮭を触るのも切るのも全部が初めてで、緊張やどきどきや不安でいっぱいでした。やってみると骨は固くて切れないし、水は冷たいし、自分一人でやるので精一杯でした。でも切り込みを入れてもらって出来たときはうれしかったです。
- ・ 秋田の方でハタハタの加工を見たことがあります。新巻鮭と同じようだったので、このやり方は全国で使われているんだと思いました。



11月15日(金) 1年生 少年水産教室 「新巻鮭づくり②」 (荷捌き場)

13:55～14:25 新巻鮭の仕上げ 1年…閉校式

〈感想〉

- ・ 私たちが水産教室をできたのは、海岸や川のがれきを撤去してくださった方々や、漁協さんと一緒に荷捌き場を建てるために支援して下さった方々がいたからです。川がきれいでなかったら鮭は綾里に帰れなくて、荷捌き場がなかったら今年も水産教室はできなかったはず。また、鮭は大きくてびっくりしたし、鮭たちが綾里川に無事に元気に帰ってきてくれてありがとう、という気持ちになりました。これからの綾里や漁業の復興のため、川を汚さないなど今の私たちにできることに全力で取り組みたいです。
- ・ 今思えば、あの震災から2年8か月経っています。震災で漁業の施設も船も何もかもなくなってしまいました。荷捌き場や鮭ます孵化場なども大きな被害を受けました。しかし、今回荷捌き場はとてもきれいに建て直されていました。支援をいただき、漁業者の皆さんが震災に負けなかったからだと思います。これから先もずっとこのことを忘れないようにし、そして、自分でも他の被災者の方々に何ができるかを考えて生活したいです。
- ・ この水産教室が数年ぶりに行われると聞き、綾里は復興が進んでいると感じました。また、鮭の加工をしながら、鮭は日本と関わりが深いのだと感じました。また、新巻鮭は綾里になじみ深い食べ方であると知りました。作るのは手間も時間もかかりますが、それだけの価値がある、と自分の作った新巻鮭を食べて思いました。この体験を将来に役立てたいです。

11月22日(金) 岩手県中学校総合文化祭において「野形剣舞」発表 (岩手県民会館大ホール)

◇ ふるさとの郷土芸能の伝承活動を通して地域の方々の「野形剣舞」への誇りと熱意に触れ、自分も地域の一員であるという自覚や、地域を愛し、地域の方々と一体となって地域文化を支えていこうとするたくましい気持ちを育てる。

11月5日(火)～11月20日(水) 19:30～21:00 剣舞・笛の練習

指導者 畑中道之氏他 野形剣舞保存会

11月22日(金) 第12回岩手県中学校総合文化祭で発表 (有志18名 岩手県民会館)

〈感想〉

- ・ 中学校生活最後の剣舞の本番はいい踊りができたと思います。練習の時1年が加わったので踊る位置も変わり、踊りがそろわずとも思うように動きませんでした。一生懸命に踊っても、保存会の方から怒られてばかりでした。今思うと、僕たちにきちんとした野形剣舞の踊りを受け継いでほしかったからだと思います。だからあんなに真剣に教えて下さったのだと思います。
- ・ 野形剣舞はずっと保存会の人から男子中学生が教わり、僕も頑張ってきました。これからもずっと後輩達が私たちの分まで踊り、野形剣舞の踊りと伝統を受け継いでほしいです。



まとめ

- ・ 過去の震災津波や先人の生き方を知るにつれ、命の大切さを再確認し、教訓として得た減災や防災への取り組みを生活の中に生かして次世代に語り継ごうとする気持ちを育てることができた。
- ・ 郷土芸能の伝承活動を通し、指導者とのコミュニケーションを深めながら地域文化への誇りをもつことが出来た。地域を愛し、互いに思いやりをもって力を合わせて生きていこうとする気持ちや、郷土の文化の担い手となろうとする自覚を強くしている。
- ・ 震災後中断していた水産教室の再開により、生徒達は地域産業の復旧状況を実感している。また、復興を目指して働いている人々と接する中で、恵まれた自然環境を再確認し、ふるさとの未来図を描く中で、自分も復興を支える一員になるために今できること、やらなければならないことを具体的ににつかみ取っている。
- ・ 次年度は、地域の震災復興委員会、復興支援団体等と連携し、生徒による震災津波の調査活動を通じて「思考力・判断力・表現力」の形成を図りつつ、未来に向かう「生きる力」の育成を図りたい。

地域の方の感想

- ・ 震災津波は地域水産業等に大きなダメージを与えたが、この復興教育を通して、子ども達に地域産業の未来につながる光を見つけてほしいと願う。地域の復興は、ふるさとを愛しふるさとで生きる人間をいかに育てるにかかっている。自分達大人も頑張りたい。
- ・ 生徒たちは震災経験を通して辛い思いをしただろうが、その中から得たことは悪いことばかりではないはずだ。それを、これからの生き方や自分の将来、地域での生活に生かし、次代に引き継ぐ人間になってほしい。